



# 菊武学園フラッシュニュース

## 初の文科大臣表彰 名産大研究グループ



(伊藤教授、林教授、岡村教授=左から)

名古屋産業大学研究科長の伊藤雅一教授、岡村聖教授、林敬三教授の研究グループは4月17日、2019年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しました。

文科省は毎年、研究部門など5部門の科学技術に功績のあった研究者らを顕彰しています。伊藤教授ら3名は、科学技術の普及啓発などに寄与した「理解増進部門」で高い評価をうけました。名古屋産業大学では初めてです。

表彰理由は2003年度から15年間にわたって、児童・生徒が学校周辺のCO<sub>2</sub>濃度と地域環境との関係を調査し、低炭素の地域づくりに役立つ環境教育プログラムを開発。さらに日本と台湾の小中高延べ129校で、5000名を超える児童・生徒が参加し、科学技術の理解増進に寄与したことも評価されました。2017年度の地球温暖化防止活動で環境大臣賞に続く受賞です。

## 初の合同宿泊オリエン実施 名産大と名古屋経営短大



名古屋産業大学と名古屋経営短期大学は、4月3、4日に愛知県南知多町の「県美浜少年自然の家」で、

初の新生合同宿泊オリエンテーションを開催しました。大学と短大合同ビーチバレーボール大会やキャンプファイヤーでは、全員が一つになってゲームなどに取り組み、交流を深めました。

## 教育の大切さ 訴える

### 高木理事長がFMラジオ出演



菊武学園のトップ就任10年の高木弘恵理事長が5月5日夕、FM愛知のトーク番組に出演しました。

パーソナリティの稲葉寿美さんと、総合学園を運営する喜び、厳しさを織り交ぜて、教育の目指す方向を、リスナーに語りかけました。

## 名産大に五輪を目指す3選手入学 令和元年 菊武学園に新入生 1100名



(高木学長が愛情教育を強調する式辞)



(菊華高華曲部がサクラの下で演奏)



(菊専入学式で新入生が誓いの言葉)

名古屋産業大学から菊武幼稚園・稲葉保育園まで、菊武学園が運営する7つの学校・園の2019年度の入学式が無事終了しました。合わせて1100名近くの新入生が、学園の教育理念である愛情教育と実践教育の方針の下で学んでいます。名古屋産業大学には、オリンピック出場を目指す高いレベルのアスリート3名が入学しました。



1人は、名古屋産業大学ウェイト部の山口優人選手(18)(新居浜工高)。2024年パリ五輪、2028年ロサンゼルス五輪に向けての若手強化策として、6月1日からフィジーでの世界ジュニア選手権日本代表選手(55キロ級)に選ばれました。高校時代には全国高校総体で連続制覇し、アジアユース世界選手権2位を勝ち取っています。



(ライトフライ級の岩崎選手)

名古屋産業大学ボクシング部に入部した岩崎なつみさん(18)(浪速高校)は、一昨年の全日本女子選手権大会にライトフライ級で2位の好成績を上げています。大阪出身。全日本でベスト8を目標に厳しい練習を重ねています。



(日本代表の山口選手)

スノーボードで世界のトップ選手を目指しているのは、青木浩範選手(18)(名古屋工学院専門学校)。ハーフパイプやスロープスタイルの2競技を中心に大会に挑戦。2018-19シーズンでは宮城ジュニアスノーボード競技会で2位、1昨年のシーズンでは2大会で優勝しています。



(スノーボードの青木選手)

## 小幡緑地にコナラの苗植樹 選択講座の生徒が緑化活動



菊華高校の3年生約20名が、4月19日、名古屋市守山区の小幡緑地に、コナラ約20本を植樹しま

した。KIKUKA講座の一つ「環境を考える」で4年前に始めたプロジェクト。これまで約270本を植えました。4年前の植えた苗が、すでに背丈ほど成長し、生徒は「早く大きくなって」と祈りながら緑化活動に汗を流しました。

**菊武学園 エコキャップ回収活動  
累計 658 万個に達しました  
(2019・4・1現在)**

## 災害公営住宅に憩いのベンチ 菊武夏まつりの義援金を活用

東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた、宮城県気仙沼市本吉町の小泉地区



災害公営住宅に、菊武夏まつりの義援金の一部を活用した、アルミ製ベンチ4台が設置され、一人暮らしの高齢者らの憩いの場になっています。

名古屋経営短期大学・名古屋産業大学の東北ボランティア隊が、3月11日に行われた宮城県気仙沼市の追悼式典で、津波被害に遭った小泉地区の顧問を務めている気仙沼市議の及川善賢さんに義援金を手渡し、実現しました。